

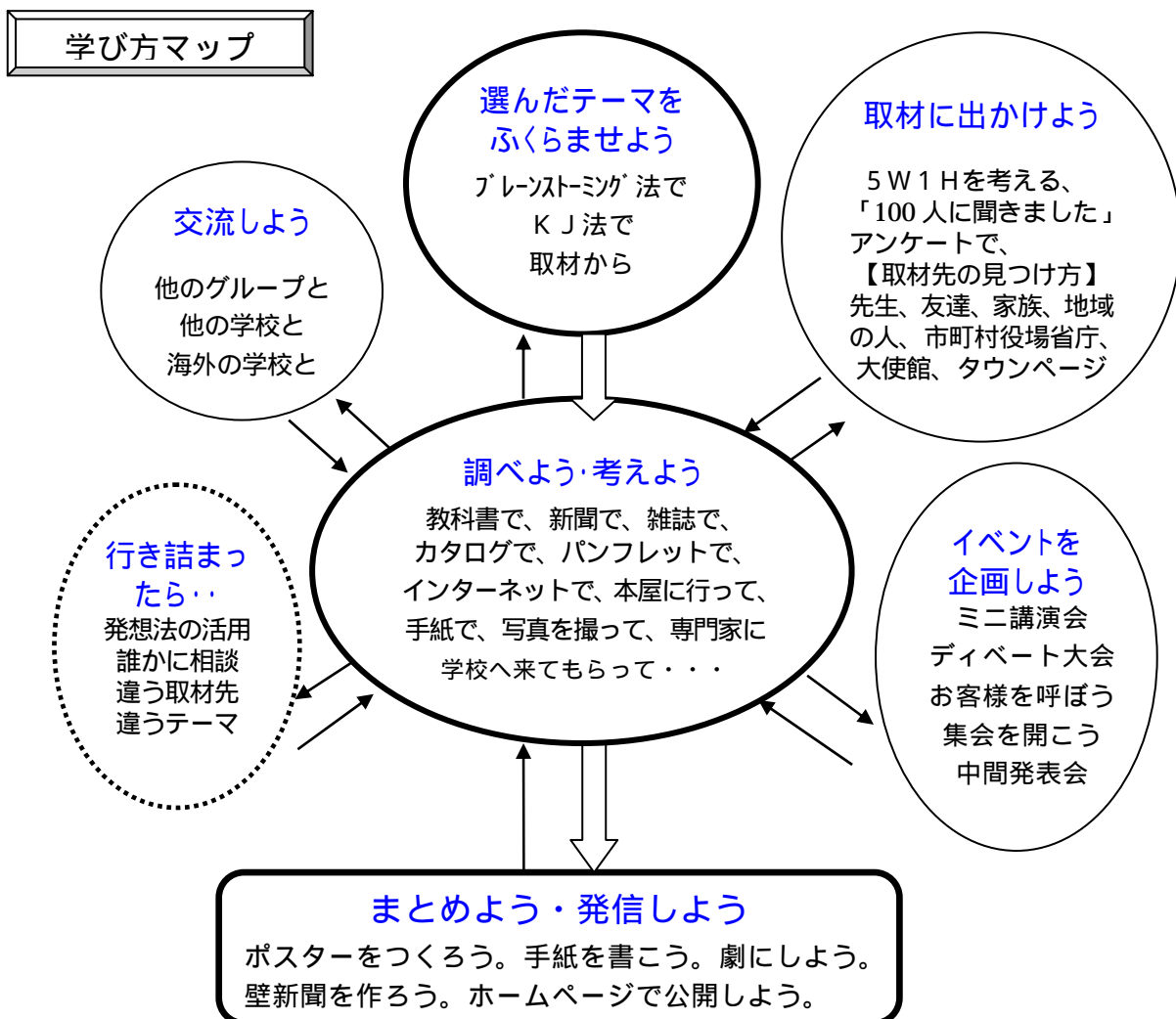
視点3：主体的な追究活動を支援する

基本的な考え方

1 学習の進め方のヒントを示すなどして、自己決定を促す

グループや個人で課題を追究する場面においては、学習が停滞することがあります。また、学習の方法や進み具合などが異なるために、何通りもの課題に教師が対応する必要が生じ、指導が難しいという状況もみられます。

そこで、多様な課題に基づく学習活動を支援するために、課題追究の段階で考え得る活動を整理して下の図のようにまとめてみました。これは、計画を示すものではなく、児童へのアドバイスを図式化したものです。進捗状況を見ながら活動を方向付けたり、活動が行き詰まっている児童に助言したりする際に役立ちます。また、このような図を示すことによって、児童は、多様な追究方法があることを知ったり、学習の進め方についてヒントを得たりすることができます。 (⇒【事例1】)



ただし、児童が、活動の途中で迷ったり、うまくいかなくて考えたりしているときにも、教師は、「今、この子は何を学んでいるのか」ということをとらえようとするのが大切です。活動させることばかりに目が向いてしまうと、児童を追い立ててしまうことになりかねません。児童が、追究の過程で自分の学びを振り返り、自分はどのように考えていたのか、今はどうか、これからどうするかなどを考えて取り組んでいることが主体的な学習であるともいえます。このことは、児童が、学習の見通しとめあてをもつことにも関係します。学習の見通しとめあてをもたせるために、単元のはじめに活動計画表や自己評価票を配布し、学習の過程で自分の学びを記録していく習慣化を図ることも有効です。 (⇒【事例2】)

2 学習の手引きなどを活用して、追究に必要なスキルを指導する

児童が問題の解決や追究活動に主体的に取り組んでいくためには、学び方を理解していることが必要です。活動への関心や意欲が高まり、何をすればよいか活動の方向性が決まっても、実際に調べたり表現したりできなければ、学習を進めていくことはできません。追究や表現に必要なスキルを明確にし、それらが身に付くよう、教科等における学習との関連も考えながら具体的に指導することが大切です。

例えば、「手紙の書き方」、「電話のかけ方」、「インタビューの仕方」などの学習の手がかりになる手引きやワークシートを作成し、児童が必要に応じて使えるよう、これらを共有化し、支援に役立てている学校もあります。また、学習室、図書室、コンピュータ室などを整備し、部屋の使い方や資料の探し方などを児童にも分かるようにしておくことも、主体的な活動を支援することにつながります。 (⇒【事例3】)

児童が追究や表現に必要な知識や技能を身に付けることができるよう、これまでに整備してきた学習環境や作成してきた教材などを効果的に活用し、指導していきましょう。

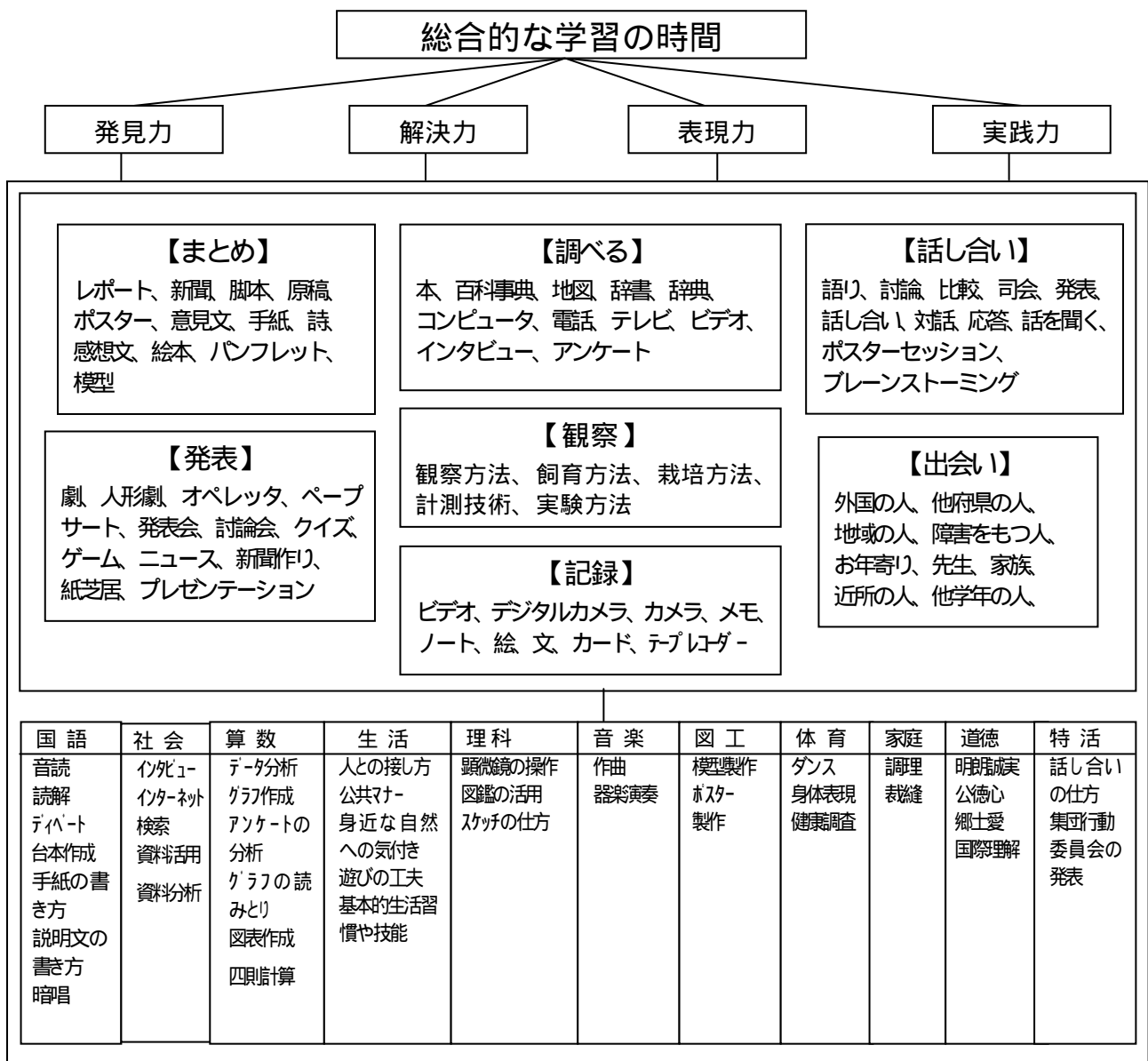
3 児童が学習に関する情報を共有できる機会や場を工夫する

児童の活動を支援するためには、折にふれて集団での情報交換の場を設けることも大切です。学習の進め方などについて学び合える機会や場を工夫することも、主体的な活動を支援する方法として有効です。それぞれの課題は異なっても、参考になる情報や意見を得ることができ、相互評価することによって新たな意欲が生まれることが期待できます。

例えば、学習室や通路などを利用して展示コーナーを設け、各学年の学習の様子と成果を知らせることで、意欲付けを図ったり学習の見通しをもたせたりすることに効果をあげている学校もあります。 (⇒【事例4】)

【事例1】 育てようとする資質・能力を明確にして学習活動を支援する
 学びの方法を示した一覧表を作成し指導に役立てている取組

この事例では、育てようとする資質・能力と想定される学びの方法を示した一覧表を作成して指導に役立てています。このように、追究や表現に必要な活動や方法など示すことにより、教師は、総合的な学習の時間と各教科等の関連を意識して指導することができます。特に、総合的な学習の時間においては、児童が自分の課題に合った方法を選んで学習できるよう支援しています。



【事例2】 学習の見通しとめあてをもたせる

活動計画表と自己評価票を活用した取組 -

この事例では、児童が見通しをもって活動できるよう、活動計画表を単元の初めに配布しています。学習の段階を「第1ステージ」から「第4ステージ」、「ファイナルステージ」と名付け、親しみをもたせています。時間を無制限に与えることはできないので、時間配分のめやすを示し、児童が与えられた時間の中で計画的に追究できるよう支援しています。また、自分の学びを振り返る時間を確保し、自己評価票に記録させています。教師から励ましのコメントなどを返すことによって、児童の学びを支援しています。



活動計画

日	期	活動のめやす
10/15	1	これからの学習について知ろう
10/16	2, 3	ごみへらしたんげんに出発!
10/19	4, 5	自分が調べたいテーマを決めよう
10/20	6	合言葉を決めよう
10/26	7, 8	グループで、調べる内容や調べ方、分組、まとめ方や発表の仕方について話し合おう
10/29	9	調べよう 1
10/29	10, 11	調べよう 2
11/1	12	中間発表会 パート1
11/2	13	中間発表会 パート2
11/3	14	中間発表会 パート3
11/5	15	中間発表会 パート4
11/10	16	調べることや調べ方を確認しよう
11/17	17, 18	もっと調べよう 3
11/18	19, 20	もっと調べよう 4
11/19	21, 22	もっと調べよう 5
11/19	23, 24	まとめよう 1
11/19	25, 26	まとめよう 2
11/24	27, 28	まとめよう 3
11/25	29, 30	まとめよう 4
11/25	31	発表のじゅんびをしよう
11/26	32	発表のじゅんびをしよう
11/27	33, 34	発表会を開こう
11/27	35, 36	みんなで体験してみよう
11/27	37, 38, 39	みんなで体験してみよう
11/27	40	自分運にできることをしよう
11/27	41, 42	自分運にできることをしよう
11/27	43, 44	自分運の実せんを発表しよう
11/27	45	学習全体についてふりかえり

基本となる様式はありますが、学年の発達段階に合わせて、各学年でアレンジして活用しています。

合い言葉 自分めあて グループめあて

を知ろう、の歴史を知ろう

仲良く活動する。

交通に気を付ける、目的をもって見学する。

日	活動のめやす	活動したこと	7分制	活動して感じたこと	今日の自分を振り返ろう
第1ステージ 4/10	これからの学習について知ろう	オリエンテーション	1 2 3 4	歴史についてまとめたいものがたくさんあった。	行きたいところを調べた。
第1ステージ 5/10	の史跡や自然を知り、見学したい場所を考えよう	コンピューターを調べた。	1 2 3 4	調べてみたら7分制が、実際に調べたところと違っていた。	行きたいところを決めた。
第1ステージ 5/17	活動グループを作り、合い言葉やめあてを決めよう	グループを決めて、行動計画を書いた。	1 2 3 4	どうやって行くかを決めたりして、行き先を決めた。	行きたいところを決めた。
第2ステージ 5/24	当日の行動計画を立てよう①(めあて、コース、持ち物 他)	めあてやコースなどを決めた。	1 2 3 4	活動計画を少しだけ決めた。	決まらなかった。
第2ステージ 5/31	当日の行動計画を立てよう②(コース、課題、めあて方、他)	コースの時間をちゃんと決めた。	1 2 3 4	全部かきおこして決めた。	ちゃんと決められてよかった。
第2ステージ 6/7	当日の行動計画を立てよう③(コース、課題、連絡、他)	電車の料金などを調べた。	1 2 3 4	こんなに大変なことをやるんだ。	行くのも、持ち物も決まらなくてよかった。
第3ステージ 6/13	「いざ 出発!」	美術館とフラワーパークと学校へ行った。	1 2 3 4	フラワーパークから帰る時の電車で乗りおぼえがあった。	行く時間も決まっていたので、楽しかった。
第4ステージ 6/21	活動計画に基づいてきとめていこう 1	まじめた。	1 2 3 4	先生たちとかがいて楽しかった。	写真などは撮ってよかった。
第4ステージ 6/28	活動計画に基づいてきとめていこう 2		1 2 3 4	さすが!!	
第4ステージ 6/28	発表の練習をしよう		1 2 3 4		
第4ステージ 7/5	発表会を開こう		1 2 3 4		
最終日 7/12	活動全体を振り返ろう	ふりかえり	1 2 3 4	7分制をまとめるのが大変だった。	整頓がきちんとできてよかった。

評価票に学びの跡を記録していくことで、児童は学習の成果を実感できます。

また、教師の励ましのコメントによって、次の活動への意欲が高まり、自信にもつながっています。

大変なことでもあったけど、楽しかった。

大変なことがあっても、やることわりと喜びは大きいね。

【事例3】 追究に必要なスキルが身に付くよう指導する

「学び方カード」を作成し、調べ方や学び方を支援する取組


この事例では、手紙の書き方、電話のかけ方、FAX用紙の書き方、インタビューの仕方などの「学び方カード」を作成し、追究に必要なスキルが身に付くよう、国語科や社会科などで学習してきたことも意識させながら指導しています。

例えば、次に示したインタビューの仕方に関する「学び方カード」では、インタビューの相手や聞きたい内容などを指示どおりに書き込んでいけば、インタビューの組立ができるようになっています。授業では、インタビューの内容を書く場面は児童に任せ、教師は、支援を必要としている児童に対してインタビューのシミュレーションを行うなど、具体的に指導しています。そのため、児童は自信をもってインタビューをすることができるようになりました。

教師による指導と、児童が実際にインタビューをするという活動を繰り返し行ってきた結果、高学年になると、コミュニケーション能力が高まり、気持ちのよい挨拶や、相手や場をわきまえた受け答えができるようになってきています。

スキルが身に付き、このようなワークシートが必要のない児童には、自分でメモを作成させています。

また、一方的に用意した質問をするのではなく、相手とのやりとりで話題が広がり深まったりしていくようにインタビューすることが大切であることも指導しています。



インタビュー計画

の () 名前

1. 聞きたい内容に合わせてインタビューの相手を決める。
インタビューの相手 []

2. 質問すること、聞きたいことをまとめる。

① 聞きたいことを順番にメモしておく。

② 大切なことやどうしても聞きたいことは、先に質問する。

③ かじょう書きにしておく。

しつもんすること

1 _____

2 _____


3 _____

3. インタビューの約束をする。
(電話やファックスで、相手の都合が良い日時と場所を聞く。)

もしも()さんですか。
こんにちは。
()は、小学校の
()年()組の()です。
今、総合的な学習で()
について学習しています。
インタビューをさせていただきたいのですが、
()月()日の()時ごろ、
()へ、
おうかがいしてもいいでしょうか。
では、よろしくお願いいたします。

インタビューに必要なもの

- ・メモ用紙とえんぴつ
- ・インタビューシート
- ・たんけんバッグ
- ・テープレコーダー
- ・カメラ



4. 友達とインタビューの練習をする。
(友達にインタビューの相手役になってもらい、本番のときあわてないように練習しておく。)

また、児童は、インターネットでの調べ学習を好みますが、多くのサイトの中から自分が求める情報を探すのには時間がかかります。限られた時間の中で効率よく学習するには、教師が手順とある程度の範囲を示して、その中から検索させることも必要でしょう。教師があらかじめ児童の課題を把握し、参考になるサイトを一覧にしておくことによって、児童は必要な情報を短時間で見つけることができます。

**【事例4】 児童が情報を共有できる場を整備する
作業や学び合いの場として学習室を活用している取組**

この事例では、教職員全員で学習室を整備しました。この部屋には、追究活動を行う際に役立つワークシートなどが所定の棚に分類して置いてあり、児童は、必要に応じて、これらを自由に使うことができます。学習に必要な紙類や文房具も常備されているため、教室から紙やマジックを持って来る必要がありません。一度時間をかけてワークシートや部屋を整備することにより、児童の主体的な学習や児童間での学び合いがしやすくなり、結果的に、教師に頼る児童が減って、支援を必要とする児童への指導を充実させることができます。

また、学習室には、総合的な学習の時間に関する掲示コーナーがあり、児童は前年度の同学年の発表資料などを見て参考にしています。グループで活動する場面では、お互いの活動の様子が分かるように付箋に書かせ、進捗状況を一覧表にして掲示しています。このように情報交換の場を工夫することにより、意欲付けを図り、追究の広がりや深まりを助けています。

The image consists of two parts. On the left is a 'タイムスリップ' (Time Slip) group activity progress chart. On the right is a photograph of a storage cabinet with drawers labeled with various activity-related terms.

時	月日	グループ テーマ	1組 遊び1	2組 遊び2	3組 遊び3	4組 道具1	5組 道具2	6組 道具3	7組 道具4	8組 道具5	9組 道具6
8	9	活動計画を立て、調べるじゅんぴをしよう									
10	11	じっさいに調べよう									
12	13										
14	15										
16	17	中間発表									

NEOX

調べるために!! 説明と 子供の住所・電話番号

電話のかけ方(資料を送ってほしいとき)

電話のかけ方(買いたいとき)

手紙の書き方(質問・お礼の手紙)

手紙の書き方(お礼の手紙)

手紙の書き方(お礼の手紙)

児童は、自分たちの学習の歩みを振り返ったり、友達の学びの様子を参考にしたりしています。活動が停滞したときなどには、この一覧表が役に立ちます。